平成 15 年 8 月 22 日

ぼくたち、わたしたちの冒険遊び場

プレーパークが池袋に初登場！

本日 22 日（金）、本町防災広場（池袋本町１－４２）内に豊島区では第１号の「本町プレーパーク」（冒険遊び場）が開設され、午前 10 時よりオープニングセレモニーが行なわれた。区民参加のワークショップで、約 1 年間にもわたって、試行錯誤を繰り返して準備してきたプレーパークは、まさに子どもたちが自由に遊びを発見し、作り出すことができる「冒険遊び場」となった。

近年の急速な都市化に伴い、副都心池袋を抱える豊島区でも、子どもたちが自由に遊べる空き地が減少してきているのが実情。しかし、子どもにとって屋外で自由に遊ぶことは、創造性、協調性、自主性を育み、健全な心身の発達を促すために不可欠だと言われている。今回開設されたプレーパークは、従来型の遊具等が固定で設置されている公園とは異なり、最低限の上下水道設備等がある他は、基本的には広場があるだけの空間。その中で子ども達は、自分達で考えながら新しい遊び方を見つけだしたり、作り出したりしてのびのびと遊ぶ事ができ、「生きる力」や「人と関わる力」を身につけていく事ができる。

豊島区では初の試みとなるこのプレーパークの開設にあたっては、準備段階から区民参加のワークショップが中心となって、どのような広場にするのかが話し合われてきた。この特徴はワークショップをおとな会議と子ども会議に分けたこと。おとな会議で運営・管理や開設準備に向けての環境づくりの検討を行う一方で、子ども会議では、具体的にどんな遊びをしたいのかを子どもたち自身が考え、理想の遊び場を実現するために話し合いを重ねてきた。その中で、昨年８月には都内で先駆的な運営を続けている世田谷区のプレーパークを見学してイメージを膨らませ、同 12 月にはジオラマを作成し、自分たちが遊びたいプレーパークの形を目に見える形で作り上げていった。ベニヤ板の上に粘土で作り上げたジオラマには小川が流れ、アスレチックやキャンプ場があったり、丘の上にはどこからでも確認できる大きな時計があるといった、そこで遊ぶ子どもたちの笑い声が聞こえてきそうな「夢の場所」となった。

午前 10 時から行なわれたオープンセレモニーでは、まず高野之夫区長が「子どもの頃にこのプレーパークで遊んだという、たくさんの思い出を残してください。」と挨拶。続いて、池袋本町保育園、池袋第一保育園、池袋第二保育園の園児たちがお遊戯を行った後、武蔵野音楽大学の学生達が作るボランティア団体「響（ひびき）」による区民の歌「としま　未来へ」の合唱が行なわれた。「響」の柔らかで伸びのある歌声は、このプレーパークが人と人との繋がりによって支えられているということを実感させてくれた。また、今日のために大量の材木を寄付してくれた、区内にある材木店の小原昭夫（おはらあきお）さんに感謝状が贈られた。今後この材木を子どもたちが自由に使い、小屋や冒険遊びの基地など、子どもたちの発想を活かしたプレーパーク作りに活用していく。

子ども達は口々に「これで完成だとは全然思ってない」と言い合い「小川とかアスレチックとか今日もらった材木で作っていって、思い描いていたものに早く近づけたい」と夢は壮大。また今後管理・運営の主体となる、地域住民で組織するプレーパークの会の栗林知絵子（くりばやしちえこ）代表は「プレーパークを魅力的なものにする事で、おとなも子どももみんなで守っていく力が生まれる。まだまだこれから。頑張ります」と力強く語ってくれた。

詳細：子ども課